

2024 年度日臨技 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会(第 60 回)
青年局企画 (ハズオンセミナー) のご案内

グループワークで体験！！ VUCA の時代に適応できる職場を創るための第一歩 －外資系企業が始めた職場でのコミュニケーション術－

講師 高崎 洋一 (ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 エグゼクティブコーチ)

司会 山中 万次郎 (信州大学医学部附属病院 先端細胞治療センター長野県臨床検査技師会 青年局局长)

開催日： 第1日目 10月26日(土)15:30～17:00 第5会場 浅間E・F>

青年局では若い世代のニーズに応えるべく、20代から30代の若手技師が中心となって研修交流会を企画、運営を行ってきました。その中でもアイスブレイクやグループワークを通してコミュニケーションスキルを研鑽することをメインテーマとして活動しています。ここで新たなコミュニケーション術の1つとしてロシュ・ダイアグノスティックス株式会社が始めた取り組みについて注目しました。

ビジネスや社会を巡る環境に大きな変化が生じていて、医療の世界においては Sars-Cov-2 パンデミックやタスクシフト/シェア、人口減少の課題といった身近な例があります。過去の経験や知識から将来を予測することができる「予定調和」の環境から、予測が通用しない「VUCA (ブーカ)」な環境へと変化していると言えます。VUCA とは【Volatility (変動性)・Uncertainty (不確実性)・Complexity (複雑性)・Ambiguity (曖昧性)】のことです。ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社では VUCA 時代における組織のあり方やコミュニケーションの方法を考察し、社内教育としてグループワークを行っています。

今まさに未来を見通すことが難しい不確かな社会情勢 (VUCA 環境) の中で、企業での取り組みとしてのグループワークを本企画で体験することで、臨床検査技師が新しいコミュニケーションのノウハウを学び、今後組織の中で活躍していくヒントを得ることができるのではと期待しています。

～参加要項～

内容

4～6名のグループに分かれていくつかのテーマに対してグループワークを体験し、テーマごとに意見を集約して全体で共有します。長臨技青年局員が各グループのファシリテーターとしてグループワークを支援しますので、どなたでもお気軽にご参加ください。

・参加募集人数

約 60 名 ※定員に達し次第受付を終了いたします